

<b>1 学校教育目標</b> 「夢をもち、明るく笑顔で生き生きとチャレンジする児童の育成」 ～ たくましく ゆたかに ひびけ われら若楠 ～	<b>2 本年度の重点目標</b> ① 働き方改革に基づく、業務内容の見直しと削減 ② 教科の特性と「活用力」「転移力」を意識した授業づくり ③ すべての子どもに居場所のある温かい集団づくり ④ 伝統を引き継ぐ健康でたくましい体づくり ⑤ 家庭・地域との連携を強める学校づくり
---	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価					
① 働き方改革に基づく、業務内容の見直しと削減					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当部署等
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・学年・学級経営力の向上 ・分掌事務処理能力、タイムマネジメント能力の向上	・「担任が子どもと向き合う時間が増加した」割合を70%以上にする。(H30:61.9%) ・「業務の効率化は進んでいる」割合を70%以上にする。(H30:61.9%)	・毎週の学年打合せを通して、情報交換を行ったり、次週の見直しを持ったりするなど、共通理解のもと組織で進めていく。 ・「すぐにすべき業務」と「計画的に対応することができる業務」を判断するタスクマネジメントの意識を徹底する。 ・3部会で業務の削減について検討し、現在の業務の1割削減を目指す。 ・データの共有化を図り、過去の財産を活用していくことを推奨する。 ・定時退勤日の取組の達成率80%以上、1ヶ月の超過勤務45時間以内の達成率50%以上を目指す。	教務部
② 教科の特性と「活用力」を意識した志を高める授業づくり					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当部署等
教育活動	●学力の向上 ●志を高める教育	・基礎学力の定着 ・「授業づくりのステップ1・2・3」を徹底した上での「協力的な学び」を取り入れた授業づくりの推進 ・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・県学力状況調査で、4、5、6年の各教科すべての領域で、県平均値を超える。 ・「授業の中で友達と話し合いをしたことが役に立った」と回答する児童の割合85%以上を維持する。(H30:88.5%) ・夢や目標に向かって努力しようと思っている児童を80%以上にする。	・「学習のかまえ」の徹底に取り組む。 ・漢字の読み書き定着のため、若楠漢字検定を年2回行う。(11月・2月) ・毎週金曜日のスキルタイムの内容を見直し、特に算数科における基礎基本の定着を図る。 ・1時間の理解度を確保する適応問題に取り組ませる。 ・学びやすい環境作り(ユニバーサル・デザイン)をする。知的好奇心をくすぐる掲示物を掲示する。 ・「協力的な学び」を取り入れた授業づくりに関する校内研修及び研究授業(全員授業)を実施する。 ・道徳並びに特別活動を中心に、生き方について考えさせる授業を年間1回以上実施する。	知育部
③ すべての子どもに居場所のある温かい集団づくり					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当部署等
教育活動	●心の教育	・人権・同和教育の充実	・学級の友だちのいいところを見つけられることができると回答する児童の割合90%以上を目指す。(H30:88.2%) ・日常生活の中で「ぼかぼか言葉」「ぼかぼかアクション」を意識させ、友だちや自分を大切にしている児童を増やす。	・支持的風土のある学級集団を目指し、人権・同和教育の視点に立った授業を積極的に取り入れる。 ・人権集会、平和集会を実施する。 ・中学校区で合同研修会を実施する。 ・「学級、学校ほかほかの木」の取組を行う。職員による児童のよさ見つけも行い、児童の自己肯定感を高める。 ・「ひびき活動(縦割り活動)での異学年交流を通して、思いやる気持ちや協力する態度を育てる。 ・職員チームによるいじめ・命の講話を通して、いじめの未然防止に努める。	心育部
	●いじめの問題への対応(予防的な生徒指導、教育相談)	・児童の学校生活の充実	・「学校が楽しい」と回答する児童の割合を90%以上にする。(H30:93.8%)	・年4回ほのぼのアンケートを行い、児童の学校生活の実態をつかみ、いじめの未然防止に努める。 ・教育相談月間(6月)を年1回設け、担任が全児童に面談を行う。 ・年2回のQUTテストの実施、及び研修会をする。年2回の要保護児童の観察を行う。それらを基に児童の実態を把握する。 ・職員チームによるいじめ・命の講和を通して、いじめの未然防止に努める。 ・年5回の子ども支援会議や年10回のスクールカウンセラーとの連携を通して、支援を必要とする児童への対応を充実させる。	体育部
	○特別支援教育	・特別な支援を要する児童生徒の自立や社会参加	・「支援を要する児童のニーズに応じた取組を行った」と回答する職員の割合について90%以上を維持する。(H30:95%)	・年5回の子ども支援会議で、支援を要する児童の情報交換・共通理解を行う場を設ける。必要に応じて職員連絡会で職員への連絡をタイムリーに行う。必要に応じて、支援会議を開き適切な支援ができるように方策を立てる。 ・特別支援教育のスキルアップを図るために、講師招聘による研修を実施する。 ・授業のUD化へ向けた学習環境づくり、授業づくりを全学級で共通して実践する。 ・障害の理解を促すために学年に応じた話をする機会を設ける。	心育部
④ 伝統を引き継ぐ健康でたくましい体づくり					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当部署等
教育活動	●健康・体づくり	・体力づくりの習慣化 ・歯科保健の充実	・「スポーツや外遊びに元気に取り組んだ」と回答する児童を90%以上に上げる。(H30:91.6%) ・「1日3回以上歯みがきをしている」と回答している児童を70%以上に上げる。(H30:上学年57.7%、下学年59.4%)	・朝の時間や休み時間に外で遊んだりマラソンをしたりすることを呼びかける。 ・体育の授業では、体を動かすことを中心に活動し、めあて学習を取り入れる。柔軟性を高めるため、柔軟体操を取り入れる。 ・児童会での体育行事、おはようタイムのマラソンを実施する。 ・給食後の歯みがきタイムを全校で実施する。 ・歯科保健指導を年1回各クラスで行う。 ・歯と口の健康に関する保健だよりや掲示物を作成し、児童と保護者が歯科保健の知識を増やす手立てを行う。	体育部
⑤ 家庭・地域との連携を強める学校づくり					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当部署等
教育活動	○家庭との連携	・家庭教育力の向上	・「にこにこ家族会議の回収率85%以上を維持し、家庭との連携をとる。(H30:90.8%) ・「家庭学習ができている」と回答する保護者を70%以上に上げる。(H30:73.1%)	・「にこにこ家族会議(カード形式)を連休明け、長期休業後、年間2回実施、取り組みへの協力を呼びかける。 ・家庭訪問での「家庭学習の手引き」の配布、個人懇談時や学級通信などに自主学習を含め家庭の意識を啓発する機会をもつ。	知育部
	○地域との連携	・学校行事等に関連させた体験活動の実施	・「地域の行事に進んで参加した」と回答する児童を80%以上に上げる。(H30:80.9%)	・地域の組織と連携を取り、各教科等や総合的な学習の時間に公民館や地域住民と交流を深める場を積極的に設ける。 ・地域行事の日程やその意義を各学級や放送で確実に伝え、児童の地域行事への参加を促す。 ・地域行事の紹介について、保護者にも認知してもらうために、学校便りや学校ホームページにも掲載する。 ・教職員の参加計画表を作成し、自ら地域へ出向く体制をつくる。	指導教諭
	○校種間連携	・幼保小中高大連携の推進	・幼保小連携を図ることで、円滑に小学校に入学できた児童の割合について90%以上に上げる。 ・「3点固定」(学習を始める時刻、寝る時刻、起きる時刻)を意識して生活する児童を85%以上を維持する。(H30:85%)	・年3回以上幼保と小学校の連絡会を開催し、連携できる機会を設定する。職員が保育参観をし、幼保のカリキュラムや幼児の実態の共通理解を図る。 ・ソフトプログラム「えがお・わくわく」を活用して、基本的な生活、学習習慣の定着を図る。 ・「活用力指定事業」を軸に、城北校区における学校の交流授業や交流活動に計画的かつ積極的に取り組む。 ・小中連携協議会を行い、「3点固定」の取り組みを小中全学年で実施する。	1年、6年担任

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目